



# モーツァルト室内管弦楽団 第125回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester / 125. Regulärkonzert

<sup>2009年</sup>  
〈没後200年記念ハイドン・シリーズ〉第6回  
〈モーツァルトとハイドン〉その3

**2008年9月27日(土) 午後2時 ■ いずみホール**

Samstag, 27. September, 2008, 14:00Uhr. *Izumi Hall*, Osaka

- 主催：モーツァルト室内管弦楽団
- 協賛：いずみホール〔財団法人 住友生命社会福祉事業団〕
- マネジメント：大阪アーティスト協会 E-mail:artists@gol.com

〒530-0041 大阪市北区天神橋2-5-25-909 Tel 06-6135-0503



モーツァルト室内管弦楽団 第125回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester/125. Regulärkonzert

2008年9月27日(土) 2:00pm. ●いずみホール

Samstag, 27. September, 2008. 14:00Uhr. ● *Izumi Hall*, Osaka

2009年

〈没後200年記念ハイドン・シリーズ〉第6回

〈モーツァルトとハイドン〉その3

モーツァルト 交響曲 第36番 ハ長調 K.425 《リンツ》

W. A. Mozart

Sinfonie Nr.36 C-dur KV425 „Linzer Sinfonie“

I. Adagio – Allegro spiritoso

II. Andante

III. Menuetto

IV. Presto

ハイドン

J. Haydn

ピアノ協奏曲 ニ長調 Hob. XVIII-11

Konzert D-dur für Klavier und Orchester Hob. XVIII-11

I. Vivace

II. Un poco Adagio

III. Rondo all'Ungarese: Allgro assai

\* \* \*

モーツァルト コンサートアリア 《偉大な魂と高貴な心》 K.578

W. A. Mozart

Konzertarie „Alma grande e nobile core“ KV578

コンサートアリア 《私は行く、でもどこへ?》 K.583

Konzertarie „Vado, ma dove?“ KV583

《後宮からの誘拐》 K.384より

コンスタンツェのアリア 《どんな苦しみが》

Konstanzes Arie „Martern aller Arten“ aus „Die Entführung aus dem Serail“ KV384

ハイドン

J. Haydn

交響曲 第96番 ニ長調 Hob. I-96 《奇蹟》

Sinfonie Nr.96 D-dur Hob.I-96 „Das Mirakel / The Miracle“

I. Adagio – Allegro

II. Andante

III. Menuetto: Allegretto

IV. Finale: Vivace assai

ピアノ：小田切美穂 / Klavier: Miho Otagiri

ソプラノ：西田真由子 / Sopran: Mayuko Nishida

管弦楽：モーツァルト室内管弦楽団 / Orchester: Mozart-Kammerorchester

コンサートマスター：岡田英治 / Konzertmeister: Eiji Okada

指揮：門 良一 / Dirigent: Ryoichi Kado



門 良一 ●指揮

Ryoichi Kado, Dirigent

1939年大阪生まれ。フルートを曾根亮一氏に、指揮法を青山政雄氏に師事。62年京都大学理学部卒業、67年同大学院修了。70年同志とともにモーツァルト室内管弦楽団を創立、常任指揮者となり現在に至る。87年、モーツァルトのピアノ協奏曲全27曲、交響曲全74曲の連続演奏完結に対し、モーツァルト室内管弦楽団とともに第5回藤堂音楽賞を受賞。

現在、NHK大阪文化センター、同神戸文化センター「モーツァルトを聴く」講師。京都産業大学教授。



小田切美穂 ●ピアノ

Miho Otagiri, Klavier

京都市立芸術大学卒業後渡独し、98年ミュンヘン国立音楽大学大学院修了。01年ウィーン国立音楽大学にてディプロムを取得。その後、ブルーノ・カニーノ氏の下で研鑽を積み、07年ミラノのマルツィアリ音楽院にてディプロムを取得して帰国。留学中は大阪をはじめ、スイス、イタリアでもリサイタルをする他、数々のコンサート、音楽祭にも出演している。和木ピアノコンクール審査員特別賞、第11回園田高弘賞ピアノコンクール第3位、第4回デイス・リパッティ国際ピアノコンクール（ブカレスト）第2位。これまでにミュンヘンシンフォニカー、ルーマニア国営放送交響楽団、大阪シンフォニカー交響楽団と協演。現在、奈良女子大学文学部非常勤講師。



西田真由子 ●ソプラノ

Mayuko Nishida, Sopran

神戸女学院大学音楽学部ピアノ専攻及び声楽専攻卒業。07年3月関西二期会室内オペラシリーズ「秘密の結婚」にカロリーナ役でオペラデビュー。新聞、雑誌等で「キャラクターが抜群でとてもいい」と絶賛される。同年6月、07年11月にはモーツァルト室内管弦楽団と協演。第1回エルビス声楽コンクール第3位、ノーヴィ国際音楽コンクール奨励賞受賞。第21回和歌山音楽コンクール声楽一般の部において第1位及び和歌山市長賞を受賞。これまでにピアノを前中明子、松島恵子の各氏に、声楽を若本明志、樺田真須子の各氏に師事。現在、関西二期会準会員。



モーツァルト室内管弦楽団 Mozart-Kammerorchester

1970年に指揮者 門 良一によって設立され、38年間一貫して30数名のメンバー構成を維持するわが国では数少ない本格的室内オーケストラである。レパートリーはモーツァルト、ハイドンを中心とした古典派からバロック、前期ロマン派に及び、最近ではフランス近代の作品にも手を伸ばしている。モーツァルトに関しては交響曲と協奏曲の全曲を演奏した日本唯一のオーケストラであり、創立当初から新モーツァルト全集に準拠した楽譜を使用していることは注目に

値する。'91年のモーツァルト没後200年に際しては2年にわたり記念シリーズを催し、なかでもモーツァルトの予約演奏会プログラムを完全に再現した日本初の企画は大いに話題を呼んだ。演奏スタイルは中規模編成の特色をフルに生かしたもので、的確なテンポ、明快なリズム、清澄なサウンドは定評のあるところである。関西一円で演奏活動を展開するなかで'90年からは大阪いずみホールを本拠として定期演奏会を、また隔年毎に東京定期演奏会を行い既に16回を数えている。海外では'88年にはドイツ民主共和国文化省の招聘による旧東独国内への演奏旅行を成功させている。内外の著名アーティストと数多く協演しており、なかでもマリア・ジョア・ピリス（'85、'87年）、シブリアン・カツァリス（'93、'94年）、ベーター・ダム（'83、'86、'88、'98、'00年）、ウィーンフィル木管アンサンブル（'86年）、ライナー・キュッヒル（'90年）らとの名協演はいまも語り草となっている。'91年に姉妹団体、モーツァルト記念合唱団を誕生させ宗教曲などで活発に協演するほか、'93年には堺シテオペラとの協力による「モーツァルト・オペラシリーズ」を開始し、いずれも好評をもって迎えられている。'06年1月にはモーツァルト生誕250年記念特別企画としてオペラ《イドメネオ》の世界初オリジナル・ノーカット版演奏会形式上演を挙行し絶賛を浴びた。「素晴らしい成果」（毎日新聞）、「この楽団は注目」（朝日新聞）。

モーツァルト室内管弦楽団／出演メンバー

コンサートマスター ● 岡田英治

第1ヴァイオリン	岡田 英治	川島 多美子	角南 麻里子	クラリネット	高橋 博
	青野 久美子	原田 潤一	柳 瀬 史佳		小夜子
	中川 衛子	幣 晴代	南 宅 香織	ファゴット	利之
	谷口 朋子	池内 美紀	南 出 信一		吉田 雅代
	稲庭 真理子	道幸 明美	石川 徹	ホルン	垣本 昌芳
	北村 奈美	佐份利 祐子	西 出 昌弘		垣本 奈緒子
	大西 秀朋	上野 亮子	大江 浩志	トランペット	大西 由起
第2ヴァイオリン	本多 智子	白木原 有子	福田 淳		森下 秀
	清水 めぐみ	日野 俊介	伊賀上 文子	ティンパニ	大竹 智晃

30年以上にわたって第1ヴァイオリン奏者を務められた青野久美子さんがこの演奏会を最後に引退されます。楽団として感謝とねぎらいの意を表する次第です。

## 《リンツ》はハイドンのイミテーション？！

ハイドンとモーツァルトは、ほぼ同時期にウィーンで活躍した強力なライバル同士であり、そのうえ24歳もの年齢の違いがあつたにもかかわらず、互いに深い尊敬と友情をいだき合うという、音楽史上稀有な間柄であつた。われわれは以前からこの二人の、何らかの意味で関連のある交響曲を組み合わせたプログラムの演奏会を企画してきたが、昨年からはじめた〈ハイドン没後200年記念シリーズ〉の中でも〈モーツァルトとハイドン〉と題して同様の企画を続けている。第1回(昨年9月〈第121回定期〉)では「クラリネット」をキーワードとする変ホ調の交響曲、第2回(今年6月〈クライネ・モーツァルト第76回例会〉)では4本のホルンを主役にした作品を取り上げた。今回は、交響曲におけるモーツァルトへのハイドンの影響を論ずる際に言及されることの多い《リンツ》と、ある意味でそれと関連づけられる《奇蹟》とをならべてみた。

モーツァルトの自筆楽譜の中に、ハイドンの交響曲(第47、62、75番)の開始部分を筆写したものがあつる(K.387d)。《リンツ》が書かれる少し前、1782～3年頃に筆写されたと推定されている。モーツァルトはこの時期、ウィーンでの自作品演奏会のために交響曲を作曲する必要からハイドン作品を参考にしたのであろう。そのためか、後述するように急な演奏会のために「大急ぎで」書かれた《リンツ》はハイドンの影響を色濃く反映している。一方で、モーツァルトの交響曲としても「本当の意味での〈ウィーン・シンフォニー〉の最初のもの」(モーツァルト学者アルフレート・アインシュタイン)と評価が高いのである。

《リンツ》におけるハイドンの影響とは、全体に曲想が単純明快で健康であること、第1楽章に序奏があつること、第3楽章メヌエットの中間部(トリオ)に管楽器(オーボエ)のソロがあつること、フィナーレが急速で軽快な4分の2拍子であること、等が挙げられる。

第1楽章の序奏はハイドンの発明だが、モーツァルトは《リンツ》が初めてである(他は第38番《ブラハ》と第39番にのみ序奏があつる)。《リンツ》の序奏はユーモラスな趣きの特徴的なリズムでハイドン風に始まるが、序奏の後半は短調に転じてモーツァルト独特の陰影の濃いものとなる。この傾向は《ブラハ》や39番ではさらに強まり、序奏自体が長く重くなつていき、ハイドンの短くてさらとした“助走”的序奏とは違ってくる。

第2楽章でモーツァルトはトランペットとティンパニを鳴らすという、革命的なことをやっている。モーツァルトの協奏曲も含めた全器楽曲で緩徐楽章にトランペットとティンパニを使用した例はなく、ハイドンすらもこの時点ではまだやっていない。

メヌエットの中間部に管楽器にソロをやらせるというのはハイドンの常套手段で、大概はオーボエだがフルートやファゴットのときもある。ヴァイオリンが同じメロディをなぞっていることが多い。モーツァルトも全く同じことをやっているが、情感豊かな点でハイドンにまさっているといえよう。

フィナーレもハイドン風だが、流れるような展開はモーツァルトのものである。終わり近くの盛り上がりは本家ハイドンをしのぐほどの痛快さである。

モーツァルトはこうにハイドンの様式をすばやく、しかもおおびらに取り入れたが、一方のハイドンはどうであろうか。モーツァルトの才能を誰よりも高く評価したハイドンであるから影響を受けないはずはないが、彼はモーツァルトほど器用な人ではなかつたからその結果はなかなか見えにくい。第1楽章の序奏についてはモーツァルトの《リンツ》の6年後に書かれた第92番《オックスフォード》あたりから、中間に短調への移行が見られる。第94番《驚愕》やこの《奇蹟》も同様であり、これは明らかにモーツァルトの影響であろう。ハイドンは第88番(《リンツ》の4年後)においてはじめて第2楽章にトランペットとティンパニを導入し、《驚愕》や《奇蹟》においても同じことをしている(88番では第1楽章でそれらの楽器を出さずにおいて第2楽章ではじめて鳴らすという、いかにも《びっくり交響曲》の作曲家らしいやり方で)。《奇蹟》のメヌエット中間部ではヴァイオリンの手助けなしのオーボエだけのソロを書いているが、これは《リンツ》のオーボエ・ソロへの対抗意識があつたに違いない。

モーツァルトはしばしば「模倣の天才」といわれる。これは誤解を招きやすい言い方だが、彼の一面を言い当てている。《リンツ》はハイドンの模倣かもしれないが、上述のモーツァルトによって筆写された3曲を含むハイドンのどの交響曲にも似ていないのだ！真の模倣の天才とは、模倣される側が自分でも気づいていない本質をも模倣し、その未来をも模倣してしまうのだと言えるのではあるまいか。もちろん、模倣される側が模倣する側より優位にあることはいうまでもない。

**モーツァルト：交響曲 第36番 ハ長調 K.425《リンツ》**

1783年、妻コンスタンツェを父と姉に引き合わせるため故郷ザルツブルクを訪れたモーツァルトはウィーンへの帰途、リンツのトゥーン=ホーエンシュタイン伯爵に招かれ、当地で演奏会を催すことになった。手持ちの交響曲がなかったのでわずか5日ほどで急いで書き上げたのがこの交響曲である。このことはモーツァルトの天才ぶりを示す伝説のひとつとして知られている。

**ハイドン：ピアノ協奏曲 二長調 Hob.XVIII-11**

ハイドンの鍵盤楽器のための協奏曲は9曲ほどあるが、オルガン用かチェンバロ用かはっきりしないものが多い。最も有名な二長調のこの曲はハイドン50歳の頃の作品で、チェンバロまたはピアノ用である。ハイドンのピアノ協奏曲はオーケストラも地味で、モーツァルトのような華やかな色合いはないが、躍動感があり、生き生きとした精彩を放つ名曲である。なお、フィナーレ楽章には「ハンガリー風ロンド」と書かれている。

**モーツァルト：コンサートアリア《偉大な魂と高貴な心》K.578**

モーツァルトのコンサートアリアには、他の作曲家のオペラが上演される際、出演する歌手の依頼によって差し替え用のアリアとして作曲されたものが多い。本日演奏する2曲は、《ゴジ・ファン・トゥッテ》K.588の初演でドラベッラを歌うことになるルイーゼ・ヴィエヌーヴのために書いたものである。このアリアはチマローザ作曲の《ロッカ・アズヅラの二人の男爵》に挿入された。自分を裏切った婚約者の相手の女性に対して復讐を誓う勇ましい歌。《ゴジ・ファン・トゥッテ》のフィオルディリージのアリア《岩のように動かずに》に酷似した部分がある。

**モーツァルト：コンサートアリア《私は行く、でもどこへ?》K.583**

マルティン・イ・ソレルの《気むずかし屋でも根は善良》に挿入されたアリア。不遇の身となった夫から事情を聞かされた女性が、夫への愛を確認し、悲しみを共にすることを歌う。やはり《ゴジ・ファン・トゥッテ》の音楽に近いものを感じさせる。

**モーツァルト：《後宮からの誘拐》K.384より コンスタンツェのアリア《どんな苦しみか》**

モーツァルトのウィーンでの出世作であるこのオペラのヒロイン、コンスタンツェの歌うアリア。後宮の太守セリムに言い寄られ、従わぬと拷問にかけると脅されて応える場面で歌われるもの。オーケストラの前奏が長く、ヴァイオリン、チェロ、フルート、オーボエのソロも付いた、絢爛豪華な大アリアである。初演を歌った名歌手カテリーナ・カヴァリエリの技巧を存分に発揮させる工夫が凝らされている。

**ハイドン：交響曲 第96番 二長調 Hob. I -96《奇蹟》**

ハイドンの第1回ロンドン旅行(1791~92年)に際して作曲された6曲の交響曲(第93~98番)のうちの最初のもの(ハイドンの交響曲の番号は必ずしも作曲順にはなっていない)。この曲の《奇蹟》というあだ名の由来は以下のように伝えられている。ハイドンがこの曲を指揮するためステージに現れた時、聴衆の多くがこの有名人を近くで見ようと前の方に殺到した。ちょうどそのとき天井からシャンデリアが落下したが聴衆の移動で空席になっていたので大事に至らず、人々は口々に「奇蹟だ!」と叫んだというもの。実際、シャンデリア落下事件はあったのだが、それはこの交響曲のときではなくて第102番のときだったという。この交響曲 第96番は12曲の「ロンドン交響曲」の中でもわかりやすく親しみやすいので、このように無理やりあだ名が付けられたのであろう。

**第126回定期演奏会**

2009年  
《没後200年記念ハイドン・シリーズ》第7回

**オラトリオ《天地創造》(全曲/日本語字幕付)**

天使ガブリエル、イヴ：木村能里子(ソプラノ)

天使ウリエル：西垣俊朗(テノール)

天使ラファエル、アダム：松下雅人(バス)

合唱：モーツァルト記念合唱団(合唱指揮：益子 務)

指揮：門 良一

11月8日(土) 午後2時●いずみホール

**第127回定期演奏会**

《創立40周年記念シリーズ》第1回  
《モーツァルト・オペラシリーズ》第8回

**《ドン・ジョヴァンニ》K.527(全曲/演奏会形式上演/日本語字幕付)**

ドン・ジョヴァンニ：マーク・ウォルターズ レオロッコ：松森 治

ドンナ・アンナ：津山和代

ドン・オッターヴィオ：二塚直紀

ドンナ・エルヴィラ：野村ゆみ

騎士長：木川田 澄

ツェルリーナ：石橋栄実

マゼット：ヤオ・インジェン(姚盈任)

合唱：モーツァルト記念合唱団(合唱指揮：益子 務)

指揮：門 良一

2009年1月25日(日) 午後3時●いずみホール

会 長 岡 本 道 雄 (京 都 大 学 名 誉 教 授)  
理 事 大 西 正 文 (大 阪 ガ ス 株 式 会 社 相 談 役) 谷 口 安 平 (京 都 大 学 名 誉 教 授)  
森 井 清 二 (関 西 電 力 株 式 会 社 顧 問) 吉 野 泰 生 (住 友 生 命 保 険 相 互 会 社 会 長)  
(50音順)  
顧 問 橋 下 徹 (大 阪 府 知 事 : 申 請 中) 平 松 邦 夫 (大 阪 市 長)  
伊 藤 郁 太 郎 (大 阪 市 立 東 洋 陶 磁 美 術 館 館 長) 梅 原 猛 (国 際 日 本 文 化 研 究 セ ン タ ー 顧 問)

法人会員 (50音順)

荒川化学工業	住友金属工業	日本通運京都旅行支店	三井住友カード
井上冷熱	住友精密工業	濱田プレス工藝	ワコール
大阪ガス	住友生命保険	林 六	*
関西電力	住友倉庫	福山製紙	日本セルフ
クオーク	ダイキン工業	松下電器産業	
阪野商店	大同ケミカルエンジニアリング	丸 紅	
サントリー	高松建設	丸山サービス	

個人会員 (入会順、敬称略)

松井繁一	安藤邦洋	藤原啓助	四宮孝郎	高村 猛	千 宗 守
深田晴世	橋本太三雄	山本初代	三石武男	河原恭子	荒木陽子
河野幹雄	阿部由美子	馬場明和	内藤壽一	松井とも子	宮崎悦朗
河野奈津子	中川泰幸	阪野俊一	小西信一郎	得田栄蔵	栗原順子
福岡隆子	石上豊子	森 明子	佐野廣子	平山昭邦	谷口勝昭
梅原一哲	村本孝夫	宮川泰濟	内田俊策	菱谷勝次郎	完倉正信
石本三千也	松本幸道	和田暁夫	神林恒道	足立宣治	野口祐三
田村眞也	笹川忠士	桑名孝子	岡野昌樹	東武次郎	野口外志子
竹村治彦	緒林桂子	石光正男	岡野恵津子	竹林 大	森本 武
岸田克己	碓井昭彦	松枝正明	杉浦和子	中谷庄八	小山浩
梅村博也	碓井みち子	松枝多加子	脇田 修	豊田紘生	野原清秀
屋良 卍佐治	長井重龜	光成博次	多屋貞男	奥野哲久	大西理都子
國友正和	岸田多門	植田史子	野村 透	平岡龍人	堀 正二
梅田文一	能田 豊	高杉方宏	佐野雅祥	平岡禮子	中野 勇
稲垣千代子	森内達治	川島弘章	今井安男	大西 勇	松井基純
浮田俊太郎	宮井茂治	川島啓助	玉手隆子	飛田 薫	松井香代子
荻野伊都子	祐野尚子	坂本綽子	野崎志朗	飯田祐子	山本春子
桑山 弘	金定秀光	中井武司	橋本靖昭	森野多聞	山本道子
三谷郁子	金定嘉也子	中井佐和子	冠 大五	宮井芳子	和葉嘉夫
田中 喬	中條 澄	西森文彦	有賀照雄	塩脇昭司	大磯隆一
天野康英	中嶋允子	岸田孝之助	佐野哲郎	塩脇祥子	中村多美子
三浦信一郎	福岡昭吉	豊田成子	小柳陽一	一木 晃	細井提吉
水島敬夫	山本次郎	切畑敦詞	服部盛隆	岩崎弘一	大谷弘枝
渡辺優子	菅 正徳	中東富佐子	田中四郎	河瀬清子	
平川美津子	日高 穂	金盛琢志	村西良彦	佐竹時子	

会 費・個人会員につきましては年会費1口2万円です。

・法人会員につきましては年会費1口10万円です。

(有効期間は入会時より1年間です。)  
随時ご入会いただけます。

会員の特典・年間6回の自主公演にご招待致します。(1口につき個人各1枚、法人各5枚)

・ご同伴者は10%割引となります。

・関連演奏会のご案内又はご優待を致します。

・定期演奏会プログラムにご芳名を記載させていただきます。

・会報「ディヴェルティメント」をお送り致します。